

迫害の下で

使徒言行録 8:1b~8:13

2018. 11. 11

熊取教会

5

¹ その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。² しかし、信仰深い人々がステファノを葬り、彼のことを思って大変悲しんだ。³ 一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。⁴ さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。⁵ フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。⁶ 群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。⁷ 実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしてもらった。⁸ 町の人々は大変喜んだ。⁹ ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。¹⁰ それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なものといわれる神の力だ」と言って注目していた。¹¹ 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。¹² しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。¹³ シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。

10

15

【はじめに】

先週は昇天者記念礼拝のあと、関西聖地霊園で墓前礼拝を守りました。死の重さを思い、復活の望みに改めて心を向けるひと時でした。その前の週に、ステファノの殉教を学びました。このステファノが、最初の殉教者です。キリストの死と復活を信じていた彼は、復活に望みを置きつつ死んでいった最初の弟子です。このステファノの殉教をきっかけに、教会に大迫害が始まりました。それが今日のテキストの前半に書かれています。大迫害の結果、人々はエルサレムから周囲の、ユダヤ、サマリアへと逃げてゆきました。山の上の都エルサレムから北のサマリア地方へと落ちて行ったフィリポのことが今日のテキストの後半に述べられています。

20

25

【大迫害】

¹ その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。

ステファノが人々の手で殺された、その日のうちに、大迫害が始まりました。教会の人々は、身の回りのものをかき集めて、急いでエルサレムから逃げ出す。坂道を下り、山を越えて周囲の村へと逃げ落ちてゆきました。飼い主のいなくなった羊たちが、散らされてバラバラに分かれる。そのように、教会の人々は散らされました。みな教会生活が破られました。共に集い、パンと葡萄酒を共に頂き、讃美の礼拝を捧げる。その喜びが失われました。エルサレムには使徒たちだけが残ったようです。

30

35

² しかし、信仰深い人々がステファノを葬り、彼のことを思って大変悲しんだ。

とあります。ステファノと親しかった、神を畏れる信仰深い人々は、エルサレムにとどまり、彼の亡骸を自分たちの墓地に運んで葬りました。彼の死は、彼らにとって、突然のことです。昨日まで親しくしていた友が、むごたらしく殺された。彼の死は突然であり、痛々しく、しかし崇高な死でした。この2節の「葬る」と訳された言葉。このもとのギリシャ語が謎です。聖書の中でここにし

か用いられてない συγκομίζω シュンコミゾーという言葉です。一緒にという言葉と、運ぶという言葉の合成語です。「葬る」と訳された言葉は新約聖書に30回ほど出てきますが、ここにだけ地区別の言葉が用いられています。ちなみに、イエスさまには、「葬る」という言葉は使われていません。墓にイエス様の亡骸を「納めた」となっています。4つの福音書すべてです。

5 「一緒に運ぶ」という意味を含むギリシャ語がどうして、「葬る」意味で用いられたのか謎ですが、この言葉から連想されるのはこんな情景です。 ステファノの血だらけの痛々しい亡骸を、板の上に横たえて、泣きながら運んでいる人々の姿です。このような死が、自分たちにも迫っている。その危険のなかで、ステファノを丁寧に葬る。殉教したステファノを「一緒に運ぶ」ということは、彼の殉教の運命を、共に担うことを暗示しているように思われます。 神を畏れるゆえに、イエス・

10 キリストに従ってそれぞれに与えられた十字架を担う。教会の中で大迫害が起きた時に、その中の信仰深い者たちのした行動に、胸を撃たれます。

3 一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。

サウロ、後のパウロは、ステファノの殺害に賛成してだけでなく、イエス様を信じる人々を、捕らえて、投獄した。家から家へと、押し入り、教会を荒らし、男女を問わず。

15 これまでも投獄されたキリスト者たちがありました。最初にペトロとヨハネが。それから使徒たち全員が投獄されました。皆、教会の責任者たちです。けれど、今度は、見境なくだれにでも、女性までも、投獄されるおそれが出てきました。その迫害を率先して進めたのがサウロでした。彼が、つぎつぎ教会の人々を「引き出して牢に送っていた」「送った。」ではなく、「送っていた」と注意深く訳されています。過去のことですけれども、終わったことではない。まだ継続中です。

20 サウロは教会がなくなるまで、続けるつもりであった。彼は、キリストの教えは、とんでもない邪な教えであると考えたのでしょう。「復活」も、「イエスはメシアである」ことも、彼は受け入れません。彼はファリサイ派の指導者ガマリエルの弟子であり、律法に熱心な青年でした。

迫害、という言葉には、圧迫する。切迫する。という印象があります。それに対して、もとのギリシャ語は「追いかける」という動詞に由来するものです。たとえば使徒言行録13章50節にこう

25 あります。

Act 13:50 ところが、ユダヤ人は、神をあがめる貴婦人たちや町のおもだった人々を扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。 これは、パウロの第一回宣教旅行で、トルコ半島の南部で起きた出来事です。人々を煽って迫害させ、追い出したとあります。迫害と、追い出すこととは言い換えです。

30 ステファノ事件を切っ掛けとして、迫害された人々は、追い出されて、ユダヤ、サマリア地方に散ってゆきました。エルサレムに隣接した地域です。それが、11章になるとさらに広がって、こうあります。Act 11:19 ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかった。

35 これらは、海沿いの町や島であり、エルサレムから更に離れた地方です。散らされた人々は皆イエス様の十字架と復活の出来事を人々に伝えて巡り歩きました。今日のテキストの後半は、サマリアでのフィリポの物語です。

【サマリアでのフィリポ】

40 4 さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。 5 フィリポはサマリアの町に

下って、人々にキリストを宣べ伝えた。

5 サマリアは、ユダヤの人々と敵対していました。700年昔、その地にあったイスラエル王国がア
ッシリアに敗れ、主な人々が東の国々に連れて行かれました。その後、別の民族が連れてこられ、
混血したために、人々はユダヤ人から軽蔑されていました。しかし、彼らも神を信じて、サマリア
のゲリジム山で礼拝を捧げて居りました。そのサマリアには、イエス様ご自身が神の国を伝えたい
10 と思っておられました。ルカ福音書では、ガリラヤからエルサレムへの旅の途中、サマリアの中を
通りたいと願われましたが、サマリアの人々に拒絶されたと記されています。ヨハネによる福音書
うでは、真昼にサマリアを通りかかったイエス様は、スカルの井戸べで、一人の女性に出会い、命
のみ言葉について語っておられます。その、サマリア地方に、フィリポが下って行き、町々で人々
15 にキリストを宣べ伝えました。

フィリポは、教会総会で、執事として選び出された七人のうちの一人です。ギリシア語を話すユ
ダ人の世話をするために、ステファノたちと共に選び出されました。彼らは教会の人々の世話をす
るために選ばれましたが、その働きは、教会の外へと広がりました。ステファノは立派にその使命
を全うしました。フィリポもまた主に用いられました。その働きが、8章の終わりのところまで記
15 されています。

【フィリポの働き】

6 群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。7 実際、
汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患
20 者や足の不自由な人もいやしてもらった。8 町の人々は大変喜んだ。

彼は12人の使徒たちに負けない大きな働きをしています。聖霊が彼を通してキリストの働きを
したのです。

【魔術師シモン】

25 9 ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉
大な人物と自称していた。10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なも
のといわれる神の力だ」と言って注目していた。11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心
を奪われていたからである。

イエス・キリストの恵みを知らなかったサマリアの人々が、魔術師シモンに心を奪われていたの
30 は仕方のないことです。しかし、シモンは、神の栄光を高めるのではなくて、魔術を行うことによ
って、自分の名を高くしようとしていました。神の力、聖霊の働きを知らず、自分自身を大きく見
せることに何よりも関心があったようです。その彼の前にフィリポがやってきました。

12 しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、
男も女も洗礼を受けた。13 シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらし
35 いしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。

フィリポの業を見て、シモン自身、驚いた。そして彼も洗礼を受けます。けれども彼の関心は、
自分の救いではありませんでした。天の国ではなかった。イエス・キリストの十字架と復活に関心
があったのではない。彼は、フィリポの持っている力に驚き、その力を何とか自分のものにしたい
と思ったようです。 フィリポによって始められたサマリア伝道の話は次回に続きます。

【終わりに】

ステファノの殉教から始まった大迫害は、教会に打撃を与え、キリストを信じる人々を各地に散らしました。散らされた人々は、行った先々で、御国とキリストの福音を人々に伝えました。迫害は、できればないに越したことはありません。けれども、この時もし迫害がなかったなら、教会はエルサレムにとどまったままで、エルサレムと共に滅びたかもしれません。

「教会」は、エクレシア。「呼び集められたものたち」の意です。神は、すべての人に呼び掛けておられます。その内、主の声に応じて集った者たちが教会を造りました。この教会を世は迫害し、教会は散らされました。しかし散らされたところで、彼らは福音を宣べ伝え、新たに教会が生まれました。そのようにして主が御心のままに教会を発展させて来られました。わたしたちひとりひとりもこうして成長した教会と似ています。私たちは、週の初めごとに教会に呼び集められます。教会に召し集められて共に主と交わり、聖められ、背中を押されて、再びそれぞれの生活へと送り出される。そのようにして、主は私たちを通してこの世に御心をなさるのです。